

実績報告書

届出者	住所	神戸市東灘区深江浜町36-7	氏名	株式会社ボオトデリカトオカツ 代表取締役社長 小幡 隆明
特定事業者の主たる業種		9食料品製造業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		コンビニエンスストア向け寿司・弁当・調理パン製造業		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間					
2018年	4月	1日	～	2021年	3月31日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(2017)年度	前年度(2019)年度
温室効果ガス総排出量	3,328 t-CO ₂	3,238 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	3,529 t-CO ₂	3,434 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2020年度)	第1年度 (2018年度)	第2年度 (2019年度)	第3年度 (2020年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3.3%	7.4%	2.8%
		削減率(原単位ベース)	%	%	%
削減率(平準化補正ベース)		3.1%	7.3%	2.7%	%
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	()
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<ul style="list-style-type: none"> ・不使用时の機械、電源停止。 ・夏場空調機室外機散水。 ・LED照明化、省エネ型空調への切替推進
--

(2) 推進体制

<ul style="list-style-type: none"> ・工場では工場長を全体責任者とし、営繕担当者を現場担当者として管理。 ・営繕担当者より各部署責任者へ指導。 ・工場での取り組み内容は、定期的に本社へ報告。

実績報告書

届出者	住所	大阪府岸和田市木材町17-2	氏名	ホクシン株式会社 代表取締役社長 入野哲朗
特定事業者の主たる業種		12木材・木製品製造業（家具を除く）		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		中質繊維板（MDF）の製造を行っており、工場及び事務所は1箇所（届出者住所と同じ）のみとなります。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間
2018 年 4 月 1 日～ 2021 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(2017)年度	前年度(2019)年度
温室効果ガス総排出量	35,578 t-CO ₂	32,546 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量（平準化補正後）	37,248 t-CO ₂	33,934 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2020 年度)	第1年度 (2018 年度)	第2年度 (2019 年度)	第3年度 (2020 年度)
選択	削減率（排出量ベース）	%	%	%	%
	レ 削減率（原単位ベース）	3.0 %	-2.9 %	-2.3 %	%
削減率（平準化補正ベース）		3.1 %	-3.0 %	-1.8 %	%
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容（目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入）

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	(年間生産量 (m3))
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

本社工場では生産量(m3)を分母とし、その生産に用いたエネルギー源(燃料・電力)の原油換算した値(kL)を原単位と設定しています。
2019年末まではプレート交換周期の短くする等の解繊エネルギー(原料のファイバー化)の低減効果と生産性の向上でエネルギー原単位は良好な値を示していたが、2020年1月～3月の間に製造設備に故障が相次いだことにより、各種設備の空運転の時間が増加した。このため、年度末に急激にエネルギー原単位が悪化し、CO2排出量は基準年度を上回った。

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>省エネ法の規定に基づき、当社では年率1%の消費エネルギー削減を目標としております。これに伴い第3年度では温室効果ガス(CO2)の排出量を基準年ベースで3%の削減を目標としています。</p>

(2) 推進体制

<p>ISO推進委員会で、ISO14001に基づいた環境マネジメントシステムを促進し、全社的での温暖化対策の取り組みを展開する。温室効果ガス排出対策の立案、実施の報告は、定期的開催される省エネルギー委員会で展開する。また各部署で目標値、改善計画を策定し実施する体制を構築する。</p>
--

実績報告書

届出者	住所	大阪府吹田市南吹田 4丁目20番1号	氏名	北越コーポレーション株式会社大阪工場 工場長 中村 達也
特定事業者の主たる業種		14パルプ・紙・紙加工品製造業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		主に、紙加工品の製造、販売を行っております。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間
2018 年 4 月 1 日～ 2021 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(2017)年度	前年度(2019)年度
温室効果ガス総排出量	3,416 t-CO ₂	3,009 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	3,589 t-CO ₂	3,166 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2020 年度)	第1年度 (2018 年度)	第2年度 (2019 年度)	第3年度 (2020 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	%	%	%
		削減率(原単位ベース)	3.0 %	3.1 %	-0.7 %
削減率(平準化補正ベース)		3.0 %	2.9 %	-0.8 %	%
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	(生産量)
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<ul style="list-style-type: none"> ・品質向上対策によりエネルギーの増大 ・他社安価品のシェア拡大により、当工場の生産量の低下 ・不要設備撤去工事に伴い、昼間の工事限定エネルギー(休憩室エアコン等)が増大した ・不要設備撤去工事に伴い、休日に工場送水ポンプを運転した為、エネルギーが増大した (通常休日は当ポンプは停止している) ・新型コロナウイルス対策に伴い、室内換気増によるエアコンエネルギーの増大

(2) 推進体制

<p>・推進組織としては、本社組織の環境統括部の下にエネルギー部をおき、各工場に事務局・分科会を設けています。また、2001年に大阪工場はISO14001を認証取得し、環境マネジメントシステムに基づき、環境影響及びリスクの低減・予防、従業員教育に取り組んでいます。</p>
--

実績報告書

		大阪府大阪市旭区赤川1丁目11番8号		北港観光バス株式会社 代表取締役 坂本 和也
届出者	住所		氏名	
特定事業者の主たる業種		43道路旅客運送業		
該当する特定事業者の要件			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		主に大阪府下での一般貸切・一般乗合・特定旅客運送事業を行う。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間				
2018 年	4 月	1 日～		
2021 年	3 月	31 日 (3年間)		
(2) 前年度における温室効果ガス総排出量				
区分	基準年度(2017)年度	前年度(2019)年度		
温室効果ガス総排出量	4,668 t-CO ₂	4,117 t-CO ₂		
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	4,668 t-CO ₂	0 t-CO ₂		
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂		
(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況				
区分	削減目標 (2020 年度)	第1年度 (2018 年度)	第2年度 (2019 年度)	第3年度 (2020 年度)
選択	削減率(排出量ベース)	%	%	%
レ	削減率(原単位ベース)	3.1 %	-5.6 %	-6.3 %
削減率(平準化補正ベース)		3.1 %	%	%
吸収量による削減率		%	%	%
温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)				
温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 (走行距離)				
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)				

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>今期は売却車輛が9台で総台数は3月末現在において昨年より5台減少です。新車の導入は4台、そのことより燃料の使用量は1667KLから1592KLに減少、走行距離では昨年5,273,440Kmから5,003,080Kmへと減少しました。継続活動と致しまして、①車両の老朽化に対する代替の推進、②省エネ運転の推進としてアイドリング時間の適正化及びデジタコ、ドラレコの充分な活用を図っていきます。又削減率について、原単位ベースでは-6.3%となる(燃費の悪い車両が残っている)が、排出量ベースでは11.9%となる。</p>
<p>本計画書からは、走行距離がCO₂排出量に大きく影響すると考え、走行距離を母数として原単位を設定し、目標削減率はベースで3.1%とし、総排出量についても削減に努める。具体的には下記のとおり取り組む。 1、最新規制対応車両への代替推進 2、省エネ運転の推進 ①アイドリング時間の適正化 ②デジタコ・ドライブレコーダーの充分な活用</p>
<p>(2) 推進体制</p> <p>運輸安全マネジメント推進メンバー及び運行管理者の研修会を実施し、ドライバーへの指導力を向上させる。</p>

実績報告書

届出者	住所	兵庫県川西市久代1-1-24	氏名	ボルツ株式会社 代表取締役社長 桑原 哲史
特定事業者の主たる業種		32その他の製造業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		ボルツ株式会社は大阪府能勢工場、兵庫県川西工場、岐阜県岐阜工場の3事業場で構成され主に自動車メーカーに製品を出荷している。そのうち能勢工場ではエンジン用特殊ボルト成形、熱処理。ピストンピンの切削、研磨。パイプの曲げユニオンろう付け品などを生産している。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間					
2018年	4月	1日	～	2021年	3月31日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(2017)年度	前年度(2019)年度
温室効果ガス総排出量	4,109 t-CO ₂	4,623 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	4,419 t-CO ₂	4,982 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2020年度)	第1年度 (2018年度)	第2年度 (2019年度)	第3年度 (2020年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース) %	%	%	%
		削減率(原単位ベース) 3.0%	-5.8%	1.4%	%
削減率(平準化補正ベース)		3.0%	-5.7%	1.2%	%
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	(能勢工場の売上高)
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>2019年度の原油換算エネルギーは2273k1と前年比111.9%と微増に留まっているが、原単位の分母(売上高)の増加が前年比120.8%と大きく、温室効果ガス削減率が1.4%で良化している。18年度は新製品の生産準備に伴い大型の生産設備を多数導入し、量産に向けたトライ加工を進めてきた。量産開始は19年度となり、売上げが増加し温室効果ガス削減率が良くなった</p>
--

(2) 推進体制

<p>兵庫県、岐阜県の3工場を統括した推進体制構築</p>

実績報告書

届出者	住所	東京都中央区日本橋2-1-3	氏名	合同会社ホワイトライズインベストメント 代表社員 一般社団法人福祿寿キャピタル 職務執行
特定事業者の主たる業種		69不動産賃貸業・管理業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		オフィスビルなどの不動産賃貸		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間					
2018年 4月 1日～ 2021年 3月 31日 (3年間)					
(2) 前年度における温室効果ガス総排出量					
区分	基準年度(2017)年度		前年度(2019)年度		
温室効果ガス総排出量	7,197 t-CO ₂		4,649 t-CO ₂		
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	8,455 t-CO ₂		5,494 t-CO ₂		
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量			0 t-CO ₂		
(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況					
区分		削減目標 (2020 年度)	第1年度 (2018 年度)	第2年度 (2019 年度)	第3年度 (2020 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3.0 %	36.2 %	35.5 %
		削減率(原単位ベース)	%	%	%
削減率(平準化補正ベース)		3.0 %	35.9 %	35.1 %	%
吸収量による削減率		%	%	%	%
温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)					
温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 ()					
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)					

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>電力供給会社変更でCO2排出係数が小さくなった事により、基準年度と比較して35.5%と大幅な削減率になりました。昨年度と比較してエネルギー使用量が増えているのは、9月に外気平均気温が昨年同月より2.5℃上昇して熱負荷が多くなり電力量が増えた為です。今期は、熱源機器の更新が予定されておりますが、効率的な空調運用をしてエネルギー使用量削減を図ります。</p>

(2) 推進体制

<p>不要な使用エネルギーの削減や設備更新等の提案による省エネを推進致します。又、その為に省エネルギー推進委員会で省エネルギーの方針を明確に設定しました。『前年同月よりエネルギー使用量を1%削減』を目標に掲げ実施します。経過は、予想電力量シート(事業所にて作成)を基に毎日確認する。省エネルギー項目については、毎月の省エネルギー推進委員会で意見を出し合い試算をしてPDCAサークルを回す。</p>
--